

## 目が逆位のマコガレイ

資源科 池脇 義弘

Key word ; マコガレイ, 目, 逆位, 鱗条数, 放流, 無眼側

2001 年 1 月 19 日に, 小松島漁協所属の小型底びき網漁業者 (Kさん) から, 「へんなマコガレイが捕れた」との電話がありました。俗に「左ひらめに右かれい」といいますが, それは眼がヒラメと同じ側に付いているとのことでした。

さっそく見に行ってみますと, 確かに眼が逆に付いています (写真 1)。眼が付いていない方の側をみると, 放流したヒラメのようにわずかに色素が出ていました (写真 2)。これはもしかしたら放流魚かもしれないと思い, このマコガレイを譲り受けて調べてみることにしました。



写真 1 目が逆位のマコガレイ  
(全長 24cm, 体重 168g, , 2001/1/18 小松島沖で漁獲)



写真 2 無眼側 (裏側) に色素が点在する  
(赤丸で囲んだ部分など)

天然でも眼が逆位のマコガレイはごくまれに出現していると思われませんが、このことについて詳しく調べた事例を私は知りません。一方、人工種苗では 3.47% 出現したという報告があります(青海 1985)。徳島県の近くでは、大阪府がマコガレイの人工種苗を放流しているので、大阪府立水産試験場(以下、大阪水試と記す)に現物を送って調べてもらいました。大阪水試の担当者の宮下敏夫さんによると、今回のマコガレイは、次のような理由により、「放流魚である可能性が高いものの、当场産であるかどうかなど断定はできない」ということでした。

大阪府では、種苗生産されたマコガレイは、天然魚と比べて背鰭と臀鰭の鰭条数(鰭に入っている棘や軟条 - すじ - の数)が多い傾向がみられる(表1, 大美 2000)。

今回のマコガレイの鰭条数は、背鰭 68 本、臀鰭 52 本と人工種苗によく見られる本数である。しかし、出現率は低いものの、天然魚でもみられる範囲である。

放流魚であったとしても、大阪府で生産されたものとは限らない。

表1 マコガレイの人工種苗と天然稚魚の鰭条数  
大美(2000)より引用

	背 鰭	臀 鰭
天然魚	60 ~ 70 (平均 64.8)	45 ~ 54 (平均 49.3)
人工魚	64 ~ 74 (平均 69.2)	48 ~ 57 (平均 52.2)

このマコガレイは、全長 24cm の雄で、すでに成熟しており、1999 年以前に生まれたものと思われまふ。大阪水試では、2000 年から標識放流を始めたそうです。標識は、タグを付けた外部標識だけでなく、耳石という頭部にある「石」を調べたら識別できる内部標識もあります。裏側に黒色素がみられるものや眼が逆位のは、放流魚である可能性が高いので、もし見つけられたらご一報ください。もしかしたら、大阪湾からはるばるやってきたものかもしれません。

#### 参考文献

青海忠久(1985), 水産増殖 第 33 巻, 119-128.

大美博昭(2000), 第1回瀬戸内海魚類研究会報告, 15-18.